

2017年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

Saskia Raer (ハノーバー市、ドイツ)

「HIROSHIMA and PEACE 2017」から学んだこと

「HIROSHIMA and PEACE」に参加する前から、私は広島や第二次世界大戦について幅広い知識を持っていましたし、平和や、それが私にとって何を意味しているのかについても理解していました。ですから、私にとって全く新しい知見はそれほど多くはありませんでした。それでも、このプログラムは質が高く多面的だったので、気づけば広島のお話やメッセージの新しい側面を異なる角度から見ていました。特に広島と芸術についての講義は私に新しい視点を与えてくれました。将来的に放射性廃棄物をどのように処理するつもりか、それらの処理はどれほど困難であるかといったことについても多くの事実を学びましたが、それらも私にとってはほとんど初めて聞くものでした。私が最も感銘を受けたのは、実際にお会いした被爆者の方々から直接聞いた証言でした。原爆投下について新たな知識を得たわけではありませんでしたが、広島で起きたことに関してより深く、感情的な繋がりを持つことができました。彼らの話を聞くことで、まさに彼らが私たち皆に求めたように、自分自身が目撃者になったかのように心から感じられたのです。

しかし、私が本当に刺激を受けたのは私と同じ講座参加者たちとの討論でした。世界中からこれほどたくさんの人が集まり、こうした題材について議論すれば、平和に関するとても多くの考え方や懸念、困難などを学ぶことができます。講座参加者には、私と同様、既に平和活動の経験がある人が多かったので、自分たちの経験や成功談、失敗談をお互いに共有することで、平和活動をいかに展開するかについての新しいアイデアも得られました。

平和活動へ向けた私の計画

私は既に計画していたことの一つを実行することができました。私が毎月開いている若者の会合で、「HIROSHIMA and PEACE」での私の経験を語り、それについて参加者たちと意見を交わすことができたのです。次のステップとして、彼らのうち何人かでも、私たちの地元でのより一層の平和活動や、独日友好協会ハノーバー・広島友好会での活動に参加してもらうことができればと考えています。私は、ハノーバーと広島についての話や被爆者たちの話を出来るだけ多くの人たちに伝えたいのです。広島のお話や被爆者たちの話を出来るだけ多くの人たちに伝えたいのです。広島のお話や被爆者たちの話を出来るだけ多くの人たちに伝えたいのです。広島の姉妹都市の市民として、広島で何が起きたのかを知り、それを自分たちの国で広めていく責任が私たちにはあると思います。

私は独日友好協会ハノーバー・広島友好会での活動を続けていくつもりです。また、女優の原サチコさんと共に「ヒロシマ・サロン」の公演も継続して行い、芸術を通して広島のお話を伝える道も模索していきます。

平和首長会議の核兵器廃絶活動への具体的な提案

目標としている核廃絶について言えば、知識こそが力であると思います。原子力や核兵器がどのように機能しているか、いかに人類の未来を危険にさらしているか、少なくともある程度でも理解すれば、核廃絶を願わずにはいられないでしょう。知識に続き、事実に対し感情での繋がりを持つことで、その信念はさらに高められます。

被爆者の話は、これら2つの要素を結びつけるものです。ですから、「HIROSHIMA and PEACE」は出来る限り多くの人々と被爆者をともにするよう努めるべきだと私は思います。私が参加したような交流事業でもいいですし、世界中の平和首長会議加盟都市に被爆者を招待するといった方法もいいかもしれません。

私の地元ハノーバーの平和首長会議事務局に対しては、広島とハノーバーの間にある既存の構造やこれまでの歴史に基づき活動することを提案します。以前述べたように、ハノーバーにある「広島祈念の杜」の広島追悼施設を活性化するイベントを開く際にはお手伝いさせていただきたいと思っています。